

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 69 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2016 年 11 月 30 日（水）10:00～12:00
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者（順不同，敬称略）
- （出席委員）新堀部会長，加藤幹事，上田，大久保，小畑，片岡（途中から退室），川上，木蔵，久保，熊谷，熊崎（途中から退室），小山，斉藤（途中から退室），坂下，田中，田村，深澤，藤田，柳原，山本（20 名）
- （代理委員）坂本義昭（日本原子力研究開発機構／高橋），大野敬介（国土交通省海事局／伊藤），工藤貴志（リサイクル燃料貯蔵／白井）（3 名）
- （欠席委員）中島，古谷（2 名）
- （代理常時参加者）青木広臣（原子力規制庁／吉居）（1 名）
- （説明者）【クリアランスレベル検認分科会】沼田元幹事，【LLW 処分安全評価分科会】山本幹事，中居委員，吉原委員，【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】都筑幹事，柏木委員，田中委員，【原子燃料サイクル専門部会】加藤幹事（8 名）
- （事務局）中越，井関，谷井（3 名）

4 配付資料

- FTC69-0 第 69 回原子燃料サイクル専門部会議事次第（案）
- FTC69-1 第 68 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）
- FTC69-2 人事について
- FTC69-3-1 ”クリアランスの判断方法：2005（AESJ-SC-F005：2005）”の正誤表の訂正についてのメール審議結果
- FTC69-3-2 山本委員から頂いたご意見について
- FTC69-4-1 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の第 66 回標準委員会における決議投票意見対応案に対する席上指摘事項への対応表
- FTC69-4-2 同上指摘事項への対応済み標準本体（抜粋）及び附属書 O（抜粋）
- FTC69-4-3 同上指摘事項への対応済み標準本体の解説（全文）
- FTC69-5-1 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）”の誤記等内容検討結果について
- FTC69-5-2 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）”の誤記等内容検討結果
- FTC69-5-3 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）”の正誤表（案）
- FTC69-6-1 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015（AESJ-SC-F014：2010）”の誤記等内容検討結果について
- FTC69-6-2 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015（AESJ-SC-F014：2010）”の誤記等内容検討結果
- FTC69-6-3 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015

(AESJ-SC-F014 : 2010)” の正誤表 (案)

FTC69-7 第 66 回標準委員会決定に基づく用語辞典の見直しについて(依頼)に対する報告結果

FTC69-8 分科会活動状況

参考資料

FTC69-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿

FTC67-参考 1 修正原子燃料サイクル専門部会委員名簿

FTC69-参考 2 標準委員会の活動状況

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員 25 名中、代理委員を含め 23 名の出席があり、成立に必要な委員数 (17 名以上) を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC69-1)

前回議事録 (案) について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC69-2)

事務局から配付資料 FTC69-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について審議することはないことが報告された。

(3) 【報告】”クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005 : 2005)” の正誤表の訂正についてのメール審議結果について (FTC69-3-1, FTC69-3-2)

事務局から FTC69-3-1 に基づいて、”クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005 : 2005)” の正誤表の訂正についてのメール審議結果の結果、可決されたこと及びこの結果を標準委員会で報告されたことが報告された。引き続き、クリアランスレベル検認分科会の沼田元幹事から FTC69-3-2 に基づいて、メール審議で受付けた意見への対応案が報告された。

(4) 【報告・審議】“浅地中処分の安全評価手法：201X (案)” の標準委員会決議投票時の意見対応案に対する第 66 回標準委員会指摘事項対応について (FTC69-4-1, FTC69-4-2, FTC69-4-3)

LLW 処分安全評価分科会の山本幹事、中居委員、吉原委員から、FTC69-4-1, FTC69-4-2, FTC69-4-3 に基づいて、“浅地中処分の安全評価手法：201X (案)” の標準委員会決議投票時の意見対応案に対する第 66 回標準委員会席上指摘事項への応案とそれに基づく標準の修正案が報告された。この報告に対して以下の審議があり、この審議結果を反映した対応案は編集上の修正と判断されること、及びこの対応案を次回の標準委員会へ上程することが全員の賛成で承認された。

質疑等は以下の通り。

C. 対応表に書かれている標準の引用文書等の中に誤記や標準自体の文書との相違が数カ所みられる。例えば、FTC69-4-1のNo.2の指摘内容及び質疑の欄に書かれている定期的な評価等の“等”やNo.4の対応案に書かれている地質環境の定義の注記に書かれている“上記の”などの記載である。これらを修正，統一すること。

A. 拝承。両方を再チェックし，統一する。

C. 対応表のNo.14で，“最大ピークは計算過程で容易に判断できる”の記述に対して，本間標準委員が，“より丁寧な解説が望まれる”と指摘しているが，ここは現行のままでよいのか。

A. “最大ピークは計算過程で容易に判断できる”の文章は，標準の中の文章ではなく対応案を説明する文書であるから，標準の記載は現行のままで問題はないが，“容易に判断”の表現が誤解を招いたと思われるので，本間委員のご指摘を考慮して，標準の解説5.3.3に，“最大値が出現する期間は予備的な評価計算を繰り返し行うことによって予測することができる”の説明を追記している。

C. 原子燃料サイクル専門部会の活動についての文中に“我が国においては，これらの原子力施設において重大な事故が発生した歴史があります。”の記述があるが，福島を事故を歴史として位置付けるのは，現時点では適切ではないので，ここは簡潔に“重大な事故が発生しております。”に修正していただきたい。

A. 拝承。

C. 対応表の3頁最上段の井口標準委員の指摘内容の記述の中に，“必要なないか”と“示したたおいたほうがよい”の2つの誤記があるので修正のこと。

A. 拝承。“必要はないか”，及び“示しておいたほうがよい。”に修正する。

(5)【報告・審議】“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010(AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果について(FTC69-5-1, FTC69-5-2, FTC69-5-3)

LLW廃棄物等製作・管理分科会の都筑幹事，柏木委員，田中委員からFTC69-5-1, FTC69-5-2, FTC69-5-3に基づいて，“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010(AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果について報告された。

審議の結果，一部修正の上，今回は誤記修正という位置付けで標準委員会に報告することが決議された。

質疑等は以下の通り。

C. 正誤表に示された内容は，単なる“誤記修正”と“内容改定に類するもの”が混在しており，正誤表で示すには無理があるのではないかと。

A. 標準委員会で示された誤記チェックの対応方針では，組織名称の変更や，規制内容の改定に類するもの(標準制定時には正しかったもの)に相当する手段がなく，正誤表で対応すべきものとしてこのような正誤表を作成した。

C. 誤記チェック対応方針では，そのような具体例まで明確に示していないため，標準活動基本戦略タスクでこの件を議題として取り上げ検討する。

C. 別紙 1 誤記等内容確認結果(FTC69-5-2)の No.3”～第二条第二号に示される規則の写しを～”は”規則の写し”でなく, ”記録の写し”ではないか。

A. 確認し, 修正する。

(6) 【報告・審議】 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)” の誤記等内容検討結果について (FTC69-6-1, FTC69-6-2, FTC69-6-3)

L L W廃棄体等製作・管理分科会の都筑幹事, 柏木委員, 田中委員から TC69-6-1, FTC69-6-2, FTC69-6-3 に基づいて, “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)” の誤記等内容検討結果について報告された。

審議の結果, 上記 (5) と同様に一部修正の上, 今回は誤記修正という位置付けで標準委員会に報告することが決議された。

質疑等は以下の通り。

C. 別紙 1 誤記等内容確認結果(FTC69-6-2)の No.1”～ほかの分子と結合した水～”は, 無くとも意味が通じるため, 削除が良い。

A. 拝承し, 削除する。

C. 同 No.2 の修正で重要度を③としているが, 荷重対象表現に関して, 誤読を生じさせる恐れがあるため, 重要度は②と考えられる。

A. 拝承し, 修正する。

C. 同 No.24 の修正で重要度を“気付き事項”とし, 備考・コメント等に脱字 (輸送) を追記と記載しているが, 容器だけでは, 収納・輸送などの, どの種類の容器を差しているかが, 明確でないため, ”輸送”を追記して明確化している。このため重要度は②に相当すると考えられる。

A. 拝承。備考・コメント等の記載, 及び重要度を②に修正する。

C. 同 No.25 の修正で重要度を“気付き事項”とし, 備考・コメント等に脱字 (格納容器) を追記と記載しているが, 原子炉だけでは, どの部位の漏えい検査かが, 明確でないため, ”格納容器”を追記し, 明確化している。このため重要度は②に相当すると考えられる。

A. 拝承。備考・コメント等の記載, 及び重要度を②に修正する。

C. 同 No.53 の備考・コメント等の記載は, “附属書 O は「参考」のため, 「検査が実施できるようにする。」との表現に修正する。”などの表現が適切と考えられる。

A. 拝承。備考・コメント等の記載を検討し, 修正する。

(7) 【報告】 第 66 回標準委員会決定に基づく用語辞典の見直しについて (依頼) に対する報告結果について (FTC69-7)

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事から FTC69-7 に基づいて, 第 66 回標準委

員会決定に基づく用語辞典の見直しについて（依頼）に対する報告結果について報告された。

(8) 【報告】原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について (FTC69-8)

事務局から FTC69-8 に基づいて、原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について報告され、(7) 返還廃棄物確認分科会 (F11SC) “1. 進捗状況” で“2007年11月制定, 2012年5月発行。2011年7月改定。”の記載はおかしいのではないかとの指摘を受け、事務局で確認することとなった。

6 その他

- ・次回第70回原子燃料サイクル専門部会は、2月28日（火）13:30から開催することとなった。

以上